※記載例を参照の上、ご記入ください。

（様式第3号）

企業・団体名（軽井沢蒸留酒製造株式会社 小諸蒸留所）

SDGs達成に向けた具体的な取組（要件２）【R5.9.5変更】

	カテゴリ	非該当	チェック項目	取組レベル	具体的な取組（県などの取得認証があれば、併せて記載してください。）	主なSDGs（17ゴールと169ターゲット）関連項目															
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
1	人権・労働	□	【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出身などによる差別を防ぐ教育体制や相談体制を整備し、差別がないことを確認している	基本	"性別、年齢、障がい、国籍、出身などの差別をしないことを明確化。役員からのメッセージで多様な人材が働く企業であることの周知を定期的に実施。 人事部を創設し、定期的に社員からのヒアリングを実施。"					5.1 5.2 5.5			8.5 8.7 8.8		10.2 10.3						16.1 16.2 16.7	
2		□	【ハラスメント禁止】 ・セクハラ、マタハラ、パワハラ等のハラスメントを防ぐ、ルール・教育・相談体制を整備している	基本	・労働条件通知書や就業規則に明記し、入社時に説明を実施している。					5.1 5.2 5.5			8.5 8.8								16.1	
3		□	【労働時間】 ・過度な長時間労働の防止に取り組んでいる	基本	・システムで、労働時間の管理を実施。 ・特に三六協定を超えるような労働時間については、アラームが本人と上長、役員へ通知されるような仕組みとしている。								8.5 8.8									
4		□	【外国人労働者】 ・外国人労働者に対する差別、人権侵害がないことを確認している	基本	外国籍職員の採用。差別や人権侵害を行わないよう役員から定期的にメッセージを出している。				4.4				8.7 8.8		10.2 10.3							
5		□	【労働安全衛生】 ・作業中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる	基本	・週に1回を目安に、5Sを意識するための会議を実施した。労働災害の事例をもとに、原因・対策を考えるグループワークを実施。 ・毎朝朝礼を実施し、安全第一の掛け声を実施。 ・危険と思った場合は、役職問わず、チャットで迅速に社内共有。上司がそれに対して、すぐにフォローできる体制が構築されている。			3					8									
6		□	【メンタルヘルス】 ・労働者のメンタルヘルスを良好に維持できるように対策に取り組んでいる	基本	・今後、定期的にストレスチェックを実施し、従業員のメンタルヘルスの状況をモニタリングする予定。システムの導入のテスト段階、2024年中にトライアル実施予定。			3														
7		□	【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材（女性、外国人、障がい者、高齢者等）が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる	基本	・社内のコミュニケーションを日英併用 ・外国人を経営陣含め、複数名採用済み ・会社の方針として明文化するか					5.1 5.5			8.5		10.2 10.3							
8		□	【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している	基本	・各従業員の目標設定・定期面談を実施する ・各業界から中途で来たメンバーのスキル紹介を実施する ・資格取得の会社補助を実施。				4	5.5			8	9								
9		□	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している	基本	・階級ごとに期待される役割を記載する。（抽象的なレベルで）それを通じて、評価を実施する					5.5			8.5		10.2 10.3							
10		□	【健康経営】 ・従業員への健康投資による生産性の向上等に取り組んでいる	チャレンジ	受動喫煙防止の観点から、施設の全面禁煙を実施。 残業時間の抑制のため、残業時間が一定数超えた人は管理者へ通知が行くシステムを構築。			3					8									
11	環境	□	【廃棄物】 ・廃棄物の管理を適切に行い、適切な処理に取り組んでいる	基本	廃棄物の量を日毎にモニタリング中。今後そのデータを活用し、排出量の削減可否の検討予定。											11.6	12		14.1			
12		□	【エネルギー・温室効果ガスの現状把握】 ・自社のエネルギー使用量、温室効果ガス排出量を把握している	基本	電気使用量はシステムでのモニタリング、ガス使用量は日々のデータ採取により、モニタリング。音質効果ガスの排出量は、現在算出中であり、通年通してのデータが揃ったら、削減方法を検討する。							7.3						13				
13		□	【省エネ・温暖化対策の計画・取組】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる	基本	温室効果ガスの排出量を取得中。今後、削減方法について、取り組む予定。							7.2 7.3					12.4	13.3				
14		□	【有害化学物質】 ・法令等で規制されている有害化学物質を把握し、使用量の抑制及び適切な使用に取り組んでいる	基本	エコアクション21の運用で環境関連法規の遵守を確認します			3.9			6.3					11.6	12.4					

	カテゴリ	非該当	チェック項目	取組レベル	具体的な取組 （県などの取得認証があれば、併せて記載してください。）	主なSDGs（17ゴールと169ターゲット）関連項目															
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
15	環境	□	【生物多様性】 ・自社活動が生物多様性や生態系に悪影響を及ぼさないよう配慮している	基本	エコアクション21の有効活用で生物多様性や生態系に悪影響を及ぼさないよう努めます						6.6									15		
16		□	【３Ｒの推進】 ・リデュース、リユース、リサイクルに取り組んでいる	基本	ペットボトルは、サンプル保管用に一部再利用中。製造工程で出る副産物については、再利用の方法を模索中。現在、副産物の一部は飼料として再利用中。												13		14.1			
17		□	【水の管理】 ・水資源の利用状況を適切に管理し、利用効率の改善に取り組んでいる	チャレンジ	エコアクション21の有効活用で水資源の利用適切管理、利用効率の改善に努めます						6.4 6.6											
18		□	【環境マネジメントシステム】 ・ISO14001、エコアクション21または同等の環境マネジメント規格を取得している	チャレンジ	・エコアクション21に向けて推進中			3.9			6	7					12	13.3	14	15		
19		□	【環境情報開示】 ・環境の取り組みに関する情報を正しく開示している	チャレンジ	・環境方針、環境に関する取り組みなどを体系的に整理し、環境経営レポートにまとめて開示												12.6					
20		□	【再生可能エネルギーの利用】 ・再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる	チャレンジ	・今後環境の配慮する電力メニューの選択を検討							7.2						13				
21		□	【天然資源の持続的利用】 ・天然資源の持続的利用に配慮した調達に取り組んでいる	チャレンジ	樽の材料となる広葉樹を含めた植林や森林の管理を近隣の森を所有している団体と計画中。												12.2	13	14	15		
22	公正な事業慣行	□	【汚職・贈収賄防止】 ・汚職・贈収賄を禁止する方針を掲げ、社員に周知している	基本	汚職・贈収賄については、定期的に会社から注意喚起を実施。																16 16.5	
23		□	【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している	基本	不正競争を行わないよう、定期的に会社から注意喚起を実施。また、疑わしい場合は顧問弁護士に相談している。																16	
24		□	【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる	基本	・国内外において、意匠・商標登録実施済み。								8.2 8.3	9								
25		□	【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している	基本	・重要情報については、ファイリングし、物理的に鍵がかかる場所で保管 ・オンラインでの情報共有においても、最低限必要な従業員がアクセスできるよう権限を管理 ・シュレッターまたは溶解処分を行い、復元不可能な状態で処理することを徹底している。																16	
26		□	【紛争鉱物】 ・紛争鉱物を取り扱っていないことを確認している	チャレンジ	・事業上、鉱物を扱っていないため、紛争鉱物は取り扱っていない																16	
27		□	【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応（ハラスメント・汚職・贈収賄防止）について認識を共有し、共に取り組んでいる	チャレンジ	・現状、弊社は創業仕立てであり、サプライチェーンや各事業パートナーに対する影響力は限定的だが、今後地域の企業を中心にSDGsに向けた取り組みを推進することを検討中					5			8		10		12	13	14	15	16	17
28		□	【パートナーシップ構築宣言】（R5.9.5～追加） ・中小企業庁等が推進する「パートナーシップ構築宣言」を作成・公表している	基本	【予定】宣言の有無を検討中。			3					8	9	10							17

※「パートナーシップ構築宣言」の作成・公表方法はこちら。https://www.biz-partnership.jp/

		非該当	チェック項目	取組レベル	具体的な取組 （県などの取得認証があれば、併せて記載してください。）	主なSDGs（17ゴールと169ターゲット）関連項目															
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
29	製品・サービス	□	【製品・サービスの安全性】 ・製品・サービスの安全性を確保するための仕組みを構築している	基本	・熟成倉庫については、空気中のアルコール濃度を測定する器具を導入しており、基準値以上の際は見学を不可取る手順をとっている。また、製造エリアの見学ツアーにおいては、中学生以上のみに参加者を限定しつつ、安全性を十分に確保できるようヘルメットの着用を義務付けている。			3.9									12.4					
30		□	【品質保証】 ・品質のよいモノやサービスを提供するための仕組みを構築している	基本	顧客から製品に対するクレームがあった場合、対応する構築している。また、製品と取り違え等、同じミスがないよう在庫製品を一律確認することを迅速に行うなど、同じミスを繰り返さないようにしている。									9							
31		□	【環境配慮】 ・環境に配慮した製品の開発・設計に取り組んでいる	チャレンジ	・廃材を使った製品を企画・開発中 ・殺処分した鹿の皮(今まで捨てていた)を再利用して、スキットルとして製品を販売						6						12	13	14	15		
32		□	【社会課題解決】 ・社会課題を解決する製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる	チャレンジ	・地域経済振興に向けて、蒸留所を長野県で設立しているほか、行政と協力して地域の観光地を巡るバスなどを企画 ・子供向けには、無料となっており、製造の現場を肌で体験できる場を提供	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
33	社会貢献・地域貢献	□	【地域への配慮】 ・自社事業が地域に与える影響を把握し適切に対応している	基本	地区への事前説明会や、近隣住民との対話を定期的に行い、改善点については随時対応をしている。				4					9		11	12		14	15		17
34		□	【社会貢献活動】 ・寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる	チャレンジ	今後取り組む予定。				4							11			14	15		17
35		□	【地域資源】 ・地域資源を積極的に利用（地消地産、地産外商）している	チャレンジ	・蒸留所内のショップにおいては、長野県での事業者から仕入れた商品を中心に販売 ・また、蒸留所内のバーにおいても、地域の食材を生かしたメニューを積極的に開発しており、地域の食材を調達して販売								8	9		11	12	13				
36	組織体制	□	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有している	基本	・経営理念および経営目標を明文化予定。 ・経営目標や重要テーマを四半期ごとに振り返る仕組みを設定予定。								8	9								17
37		□	【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している	基本	・コンプライアンス相談窓口を設置し、いつでも社内のスタッフが相談できる場を用意しつつ、研修の機会を設けることで、法令順守の考えが社内に浸透するように取り組んでいる															16		
38		□	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当、専門部署などの体制を整備している	基本	役員が各部門の管理を実施している。															16		
39		□	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー（※）との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している（※利害関係者：消費者、投資家等及び社会全体）	基本	・小諸市民デイを年に一回開催し、地域の方との交流も図りつつ、定期的に時蒸留所のスタッフが地域の方と環境問題についてコミュニケーションをとっている。 ・併せて、株主の皆様に対しても、定期的に社の状況について議論する場を設置し、報告している															16		17
40		□	【リスクマネジメント】 ・リスクを特定、評価し、マネジメントするプロセスを整備している	チャレンジ	・財務上のリスクを特定し、リスク対応策を定期的に検討している ・今後はより体系的にリスクの評価プロセスを導入予定															16		
41		□	【社会的責任】 ・ＣＳＲ（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）の考えに基づき企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対して、責任を持った対応に取り組んでいる	チャレンジ	・今後、CSR担当者を設置し、上記各種取り組みを推進予定															16		
42		□	【事業継続】 ・事故や災害などの発生における事業継続計画を立案している	チャレンジ	・社の事業継続上、重大なリスクを持つ可能性がある自然災害については、保険をかけることで、リスクのインパクトを緩和している ・今後は、より体系的に事業継続計画を設計する予定									9		11		13 13.1			16	
43		□	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている	チャレンジ	・社として若い世代が、事業を推進していけるよう教育機会を充実させている								8	9								17

上記以外で設定した取組項目

独自に設定したSDGsに資する取組	具体的な取組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17

【記載留意事項】
・「取組レベル」の「基本」の項目のすべてに「具体的な取組」が記載されていることが登録の必須条件となります。なお、今回の宣言に合わせて、今後、取組む予定のものであっても、その取組を「具体的な取組」を記載いただければ登録が可能です。（今後、取り組むものについては、「具体的な取組」の前に【予定】と記載してください。）
・「非該当」欄については、「チェック項目」が事業形態上（個人事業主等）、該当しない場合にチェックし、その理由を「具体的な取組」欄に記載してください。
・「具体的な取組」には、チェック内容に関する具体的な取組を記載するほか、取組に関連する国際機関、国、県、市町村等の認証・認定等（※）を取得している場合は、できるだけ、その旨を併せて記載してください。
（※職場いきいきアドバンスカンパニー認証制度、女性の活躍推進企業知事表彰、男女共同参画推進県民会議表彰、障がい者雇用優良事業所等表彰、信州豊かな環境づくり県民会議表彰、長野県技能評価認定制度、ＮＡＧＡＮＯものづくりエクセレンス認定、信州福祉事業所認証・評価制度、信州リサイクル製品認定制度、信州の環境にやさしい農産物認証制度、長野県原産地呼称管理制度、信州おもてなし大賞、えるぼし認定、循環型社会形成推進功労者表彰、森林認証制度、森林CO2吸収評価認証制度、長野県県産材CO2固定量認証制度、消防団協力事業所表示制度など）

○ この「要件２」は、ISO26000（※１）、RBA（Responsible Business Alliance）（※２）行動規範等を参考に、非財務情報（SDGsの観点で市場・社会から期待される基本的な事項）について整理し作成
○ 「SDGsとの関連性」については、各項目について、169のターゲットに直接的に当てはまる場合は**黒字**、　間接的（結果として）に寄与する17ゴールが当てはまる場合は、**赤字**で番号を記載
○ 企業が県へ申請する際には、チェック欄へのチェックとあわせ、「具体的な取組」へ取組内容を記載
※１…組織の社会的責任に関する国際規格　　※２…労働環境、製造プロセスの環境負荷に対する責任を持っていることを確認するための規定